
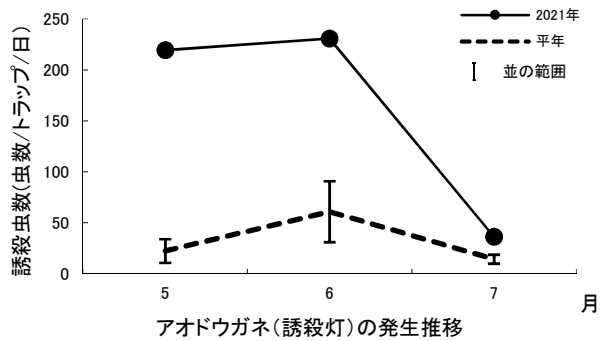


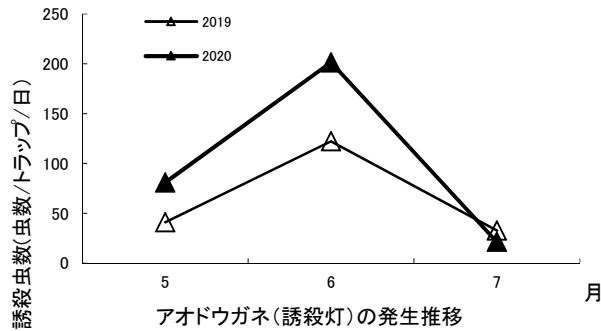
作物	さとうきび	地域	宮古群島
病害虫名	アオドウガネ		
調査結果	7 月の発生量 (平年比)	多	
予報	7 月からの増減傾向	—	
	8 月の発生量 (平年比)	—	
予報の根拠			

調査結果

トラップ調査 (アオドウガネ成虫)




過去 2 年の推移



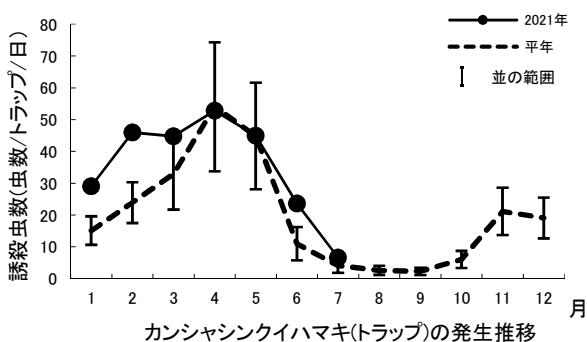
防除のポイント

- ・サトウキビにおけるアオドウガネ被害は、土壌中に生息する幼虫が9月～11月頃作物地下部を食害することにより生じ、収穫期の立枯による減収や株出不萌芽の原因となる。
- ・成虫は5～7月に出現し、テリハクサトベラ等植物の葉を集団で捕食する。食餌植物上で交尾した後地中0～10cm深に産卵する。
- ・成虫発生時期の誘殺灯による大量誘殺、6～9月の幼虫若齢期の薬剤処理及び収穫後のロータリー耕による防除を実施する。

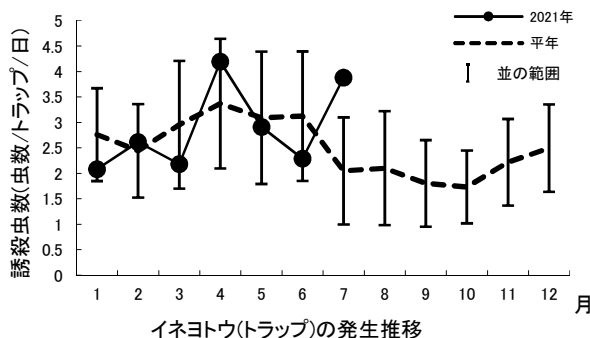
作物	さとうきび	地域	宮古群島
病害虫名	メイチュウ類(カンシャシクイハマキ・イネヨトウ)		
調査結果	7 月の発生量 (平年比)	やや多	
予報	7 月からの増減傾向	—	
		8 月の発生量 (平年比)	—
予報の根拠			

調査結果

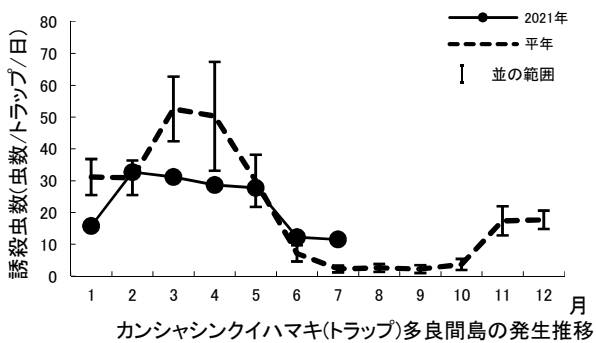
トラップ調査 (カンシャシクイハマキ)



トラップ調査 (イネヨトウ)



トラップ調査 (カンシャシクイハマキ) 多良間島



防除のポイント

- ・ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の上に散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- ・植え付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。